

本洛穂集

卷六

元

和書門	三四三八	函號	五四	冊架
-----	------	----	----	----

和書	三四三八	函號	五四	冊架
----	------	----	----	----

內閣文庫	番號	和 34388
	冊數	5 (2)
	函號	170 93

000000

共五



の沙汰しなく海軍海軍は海軍の柳市小舟を巡りては
あく軍海軍を以てしる事ありき事なり 家康もも子年
以上帝の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市
康政右三人の親類の四者一人は故人とて上りたる事
なり

一日十月十日 家康は村中細き任を以て今日十八日
を以て不圖遠く先方の事ありし事なり 柳市は
此の上帝の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右條柳市康政湯井石次を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は

右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は
右の御孫を以て御孫と申す事なり 柳市は

為一而激揚の者なり其和は中を以ては名に非
ずと云ふの如く故に子思を中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一
の如く是れ討死と云ふ所は其如き中道の國今を後表一

刑部大臣の旅館におほはれし法を以て中道と云ふ
と云ふ所は中道の外に中道を以て中道と云ふ所は
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ
中道の外に中道を以て中道と云ふ所は中道と云ふ

定て世々聚楽法をとりしむる中には家々於て其
正法を以て是富多の徳に侍はにに せしむる
家康の威光は海の方せしむるに於て其
一日八月小糸の政氏也其まゝの國自未乃去りて
老して小糸の法を 後多く其上一く以内言と其法に侍
柳永康政政淑及なりと云ふと其内のがまると其法に侍
子細老有 小糸の政氏と云ふ其子の和信也其法に侍
家康の徳をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
上列は其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり

江比りて其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
家康と其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり
其法に侍し其法をとりしむる如く和信の徳も其の徳なり

おまゝにおかたねうす物とよふりよふた多分海へも多分海へ
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所
一四二月十日 家康より山内守に教書しつ 務卿より山内守に
おまゝに書きたるはこれそのまらけりてはこれ其の
書きたるはこれ其のまらけりてはこれ其のまらけりては
一四二年三月 家康より山内守に教書しつ 務卿より山内守に
一七二二と 徳川に相つては徳川に相つては徳川に相つては
山内守より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
軍師より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
とていふ所よりいふ所のまらけりてはこれ其のまらけりては
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所
一四二年三月 家康より山内守に教書しつ 務卿より山内守に
一七二二と 徳川に相つては徳川に相つては徳川に相つては
山内守より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
軍師より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
とていふ所よりいふ所のまらけりてはこれ其のまらけりては
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所

一四二二と 徳川に相つては徳川に相つては徳川に相つては
山内守より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
軍師より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
とていふ所よりいふ所のまらけりてはこれ其のまらけりては
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所
一四二年三月 家康より山内守に教書しつ 務卿より山内守に
一七二二と 徳川に相つては徳川に相つては徳川に相つては
山内守より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
軍師より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
とていふ所よりいふ所のまらけりてはこれ其のまらけりては
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所
一四二年三月 家康より山内守に教書しつ 務卿より山内守に
一七二二と 徳川に相つては徳川に相つては徳川に相つては
山内守より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
軍師より家康に書きたるはこれ其のまらけりては
とていふ所よりいふ所のまらけりてはこれ其のまらけりては
あつらひなれおほくはつらぬまのいふ所よりいふ所

小田原を以て信州小田原の地を名に仙居の事 同正伊予守
いそ川河内同正流るの地は 以て頼朝が小田原と名に川出を
信州 名に川出の事なり

一月十日 小田原の合津 伊達守 宗行のたもと 小田原と出
馬を以て合津 頼朝の事なり 宗行のたもと 小田原と出

一月十日 小田原の合津 伊達守 宗行のたもと 小田原と出
馬を以て合津 頼朝の事なり 宗行のたもと 小田原と出

一月十日 小田原の合津 伊達守 宗行のたもと 小田原と出
馬を以て合津 頼朝の事なり 宗行のたもと 小田原と出

小田原の合津 伊達守 宗行のたもと 小田原と出
馬を以て合津 頼朝の事なり 宗行のたもと 小田原と出
一月十日 小田原の合津 伊達守 宗行のたもと 小田原と出
馬を以て合津 頼朝の事なり 宗行のたもと 小田原と出

志望一

八 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

九 奥羽、全日本、各所の陣所、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

一 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

二 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

三 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

四 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

五 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

六 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

七 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

八 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

九 志望の陣所、下野、信濃、上野、河内、和歌山、美濃、尾張、近江、丹波、出雲、備前、備後、讃岐、阿波、土佐、長門、肥前、肥後、豊前、豊後、大宰府、筑前、筑後、日向、薩摩、大隅、鹿兒島、種子島、屋久島、奄美群島、沖縄。

流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに

あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに
あはれに流るるにちのちあかしく民もあはれに

高徳集

才六

一家康公の三月下旬海府に於て初の日奥列南
初大信を信自親に家老九戸修理と申す人信
自了也 送言と在る九戸又一味の族多くて信自自
力に随ふる証の同可あり信自奥列く漸教の業を
居る日さのたより修めり信山今夜もさるの 修
法味 考康公の柳系康公の 考信山 修山 右南
初表の 考修も 考より 考考 考考 考考
出階わ 考考 考考 考考 考考 考考 考考
考考 考考 考考 考考 考考 考考 考考
考考 考考 考考 考考 考考 考考 考考

一日廿九日秀吉の妹より 家康に此の女小未出也
の以後之西の御極の事 池田三右衛門輝成より御返
也

一二月三日十八日秀吉御申上候事 家康より

一 御申上候事 御返事 御返事 御返事 御返事
白浪三右衛門少将御申上候事 御返事 御返事 御返事
在光の所より御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事

一日廿七日御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事

御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事
御返事 御返事 御返事 御返事 御返事 御返事

一 師を拜ち丹見下 利徳多し 願はくは 是れを 幸と 賜は
と 祈るを 願はくは 丹見下 中 細意 祈る 宜しき
主 此の 念ふ 酒と 飲 酒 破の 法 念ふ 此の 念ふ 下
以て 中 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
自 是の 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
沙 法 の 上 入 と 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
後 日 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
此の 如く 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ

一 日月の 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ

一 此の 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ

一 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ

一 日月の 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ
念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ 念ふ

法一... 移... 加... 下... 同... 加... 濱... 移... 上... 三... 法... とせ...

八月九日... 移... 加... 下... 同... 加... 濱... 移... 上... 三... 法... とせ...

八月九日... 移... 加... 下... 同... 加... 濱... 移... 上... 三... 法... とせ...

